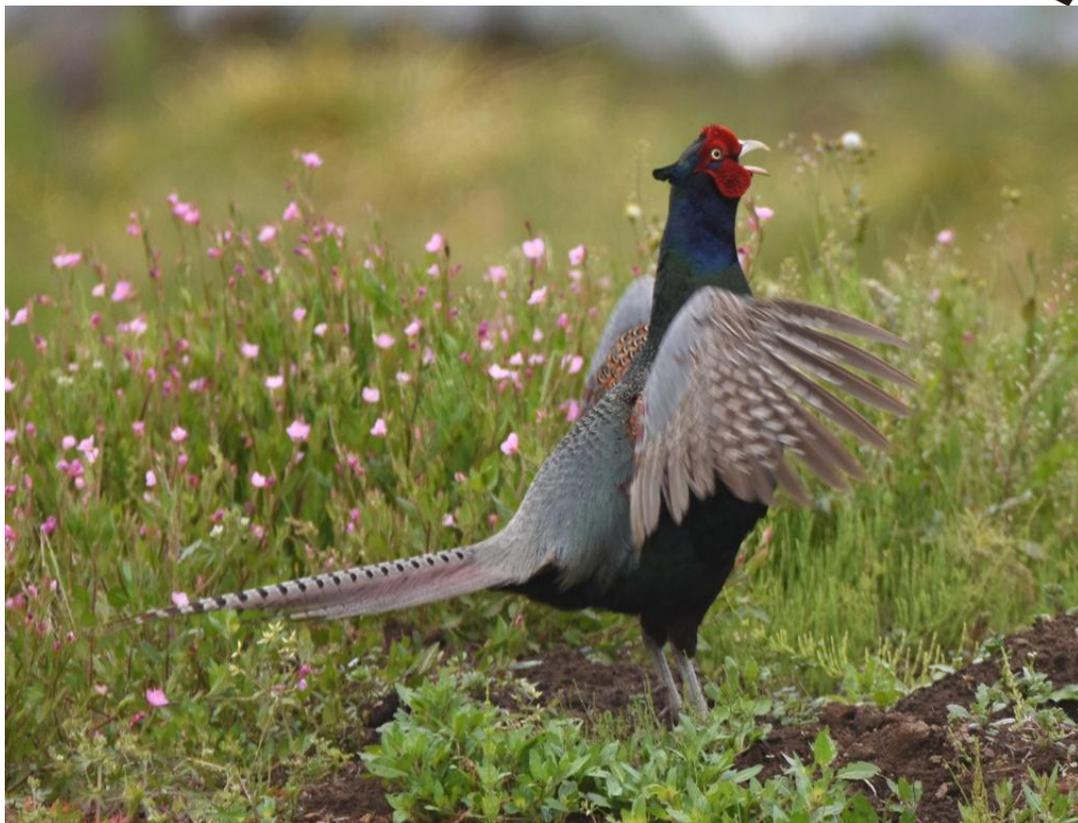


【4月のテーマ】 キジも鳴かずば見られまい

案内人：小田谷嘉弥（鳥の博物館学芸員）
・北村章子（鳥の博物館市民スタッフ）



▲畑の脇に出てきて大きな声で鳴くキジの雄。

キジは「桃太郎」などの民話や和歌にも登場する、古来より日本人になじみの深い鳥で、日本の国鳥にも指定されています。キジの雄は、春になると目立つところに出てきて大きな声で鳴くことから、「キジも鳴かずば撃たれまい」ということわざが生まれました。キジの雄はなぜこのような行動をするのでしょうか？手賀沼沿いで彼らの姿を探してじっくり観察してみましょう。

2022年4月9日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

キジの雄と雌

キジの雄は光沢のある緑色の体や赤くふくらんだ顔の皮膚などの鮮やかな見た目をしていますが、雌は全身褐色で目立ちません。生まれた年の夏の終わりから秋にはそれぞれの性別に特徴的な姿になります。



キジの繁殖生態

キジはほとんど渡りをしないため、繁殖期は春早くから始まります。手賀沼周辺では早い時は2月中から、「ケン、ケン」と鳴き、ブルルッと羽ばたき音を響かせる「ほろうち」と呼ばれる雄のディスプレイが見られます。一夫多妻の社会を持ち、1羽の雄のなわばりの中に複数の雌が営巣することがあります。雌は6～12卵を産み、1羽で抱卵とヒナの世話をを行い、雄は子育てに一切かかりません。5～8月ごろにはヒナを連れた雌の姿が見られます。



▲ 餌を探すキジのつがい



▲ ヒナを連れた雌親（白矢印）